

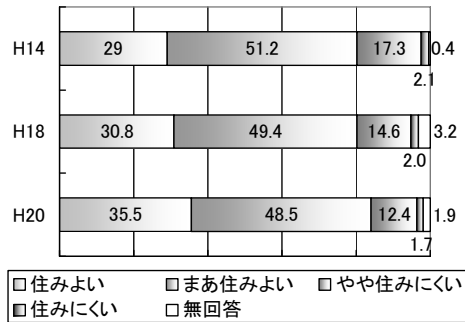
景観に関する市民の意識について

（１）総合計画策定に伴う市民意識調査の結果から

【岡崎市の住みよさ】

「あなたは、岡崎市を住みよいまちだと思いますか」との問に対し、平成 20 年の調査結果では、「住みよい」または「まあ住みよい」とする回答が 84%を占め、中でも「住みよい」とする回答の増加傾向がみられます。

■岡崎市の住みよさ（H20）



【都市基盤整備に関する施策への満足度】

「市の行政施策に係る『現状の満足度』」に係る平成 18 年の調査結果から、「都市基盤整備」に関する 6 項目の、居住意向別（住み続ける意向が強い層、弱い層）の集計結果からは、いずれの項目も、各層ともに「中心部や市街地の整備」の満足度が低くなっており、まちの魅力を高めるうえでは、特に、市街地などでの取組みが重要であることが伺えます。

- 平成 20 年市民意識調査：回答数 2881
- 平成 18 年市民意識調査：回答数 2867

（２）景観に関する市民意識調査の結果から

【岡崎の景観への誇りや愛着】

「現在の岡崎市の景観(風景、景色)に誇りや愛着を感じていますか」との問に対し、「感じている」または「少し感じている/時々感じる」とする回答が約 77%を占めています。

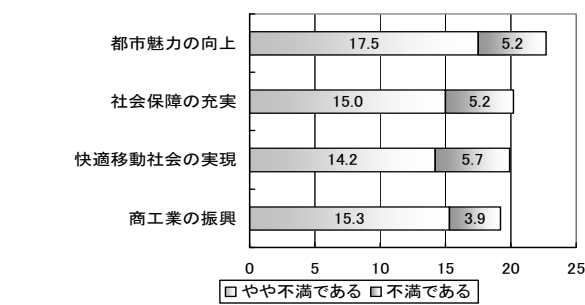
【景観の変化に対する意識】

「岡崎市の景観は以前と比べてどのようになりましたか」との問には、「変わらない」または「わからない」とする回答が 36%を占め、景観に対する関心が高くない市民もやや多いこと、現在の景観が強い人々の印象に残りにくいといったことが伺えます。

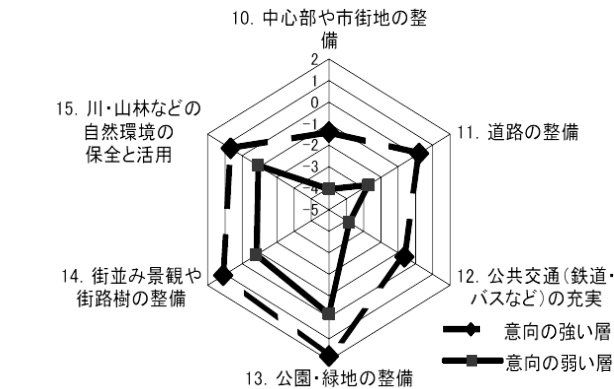
【市の行政施策に対する満足度】

27 項目の「市の行政施策に係る『現状の満足度』」のうち、各項目に対し「やや不満である」または「不満である」の割合を見ると、「都市魅力の向上」が計約 23%と最も大きく、まちの魅力に不満を感じている市民が多いことが伺えます。

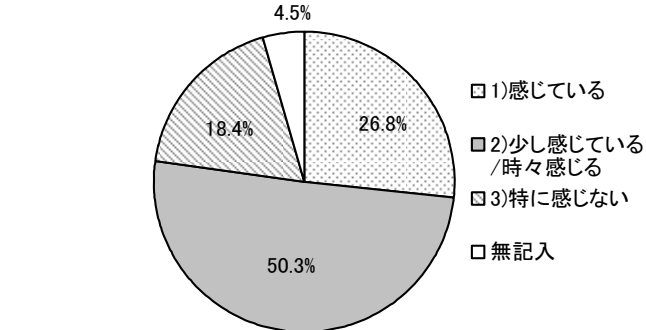
■市の行政施策に係る「現状の満足度」(H20)
(27 項目中不満の高いもの上位 4 つ)



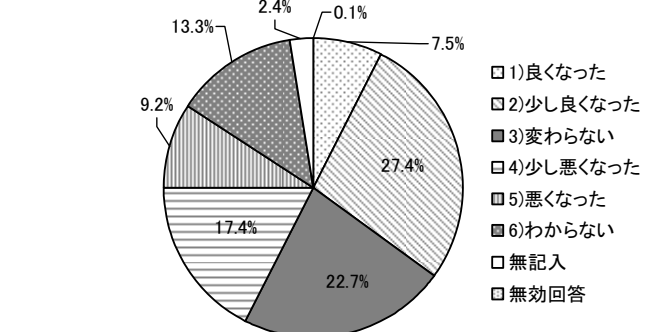
■市の行政施策に係る「現状の満足度」(H18)
(都市基盤整備に係る項目の居住意向別の状況)



■岡崎市の景観への誇りや愛着



■岡崎市の景観の変化

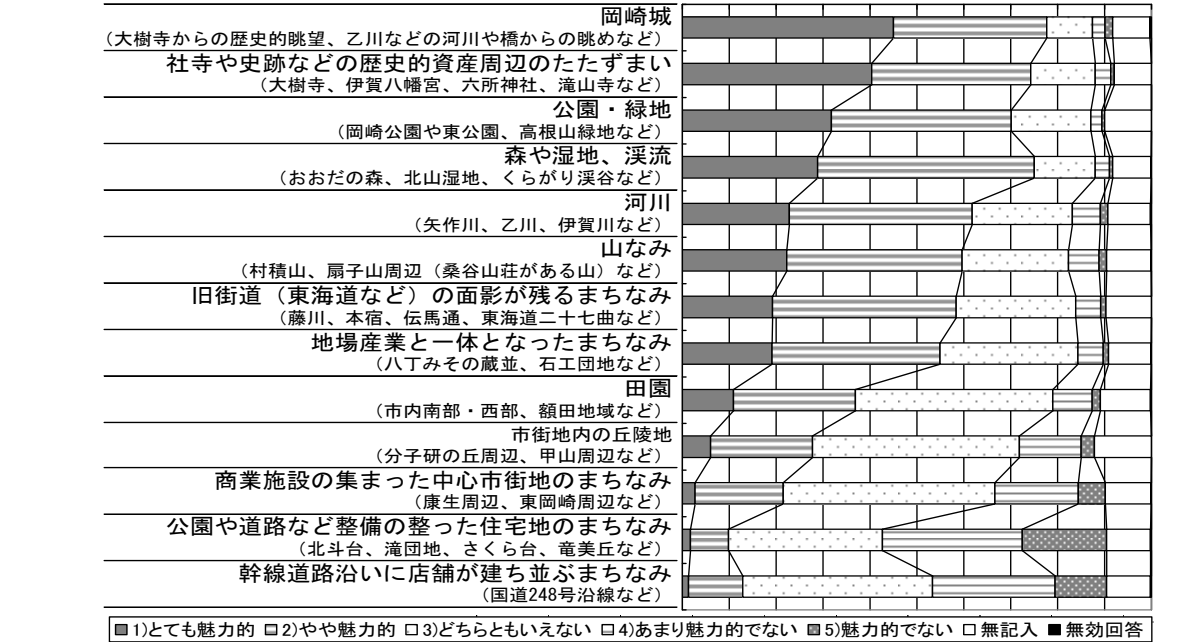


【魅力を感じる景観】

「岡崎市の景観を形成している次の項目について、どの程度魅力を感じられますか」との問への回答からは、岡崎城とその周辺の景観、森や湿地、溪流の景観をはじめ、市内の水と緑や、歴史と文化に関わる景観に対し、多くの市民が魅力を感じていることが伺えます。

一方、中心市街地や住宅地、幹線道路沿いの市街地の景観に対しては、魅力的でないとする回答が多くなっており、「市の行政施策に係る『現状の満足度』」で都市の魅力が低いと感じている市民が多いことは、市街地の景観に魅力を感じられないこととも関わるものが推察されます。

■魅力を感じる景観



【行政・施策への意向】

「景観づくりの総合的推進役としての行政の役割」に対し要望が高い項目としては右の4つ（11 項目中）があげられます。

■行政に求める役割

第 1 位：景観上重要な建造物や樹木の保全と活用を図る	(716 名)
第 2 位：景観づくりの目標や指針を示す	(594 名)
第 3 位：建築物や看板のルールを定め、必要な規制・誘導を行う	(524 名)
第 4 位：景観づくりの模範となるような公共事業を進める	(373 名)

【景観に関する規制（ルール）について】

「景観法に基づき規制を行うことについてどのように思いますか」との問に対しては、「積極的に規制するべき」または「規制するのはやむをえない」とする回答が約 68%を占めています。

また、「こうした規制はどのように設定すべきですか」との問には、約 48%が「市の全域は緩やか、重要地区はきめ細かく」としており、全市的に何らかの規制を行うとともに、地区の特性に応じてきめ細かく規制を行うことが求められています。

- 平成 20 年景観に関する市民意識調査：回答数 1094

■景観に関する規制（ルール）について

